

暖かい季節、無防備に野山や草むらにいますと、たちまち虫の標的になってしまいますね。虫さされは春から秋にかけての代表的な皮膚トラブルです。かきこわして化膿したりすることのないよう、上手に対処しましょう。今回は「虫刺され」について紹介します。

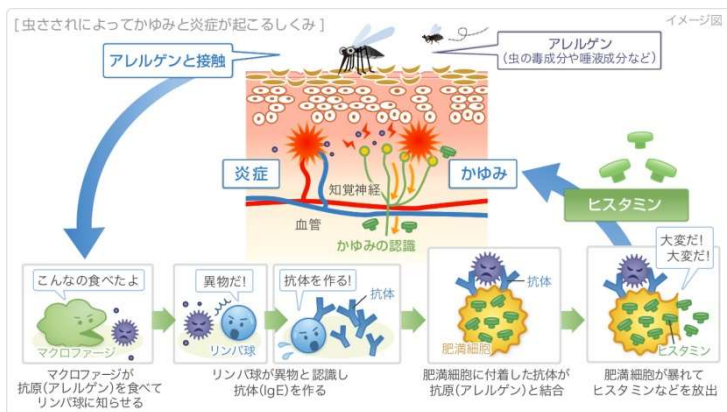


虫さされの原因とメカニズム

虫が皮膚を刺したり咬んだりしたときには、虫が持っている毒成分・唾液成分が抗原（アレルゲン）となっからだの中の抗体と反応します。それによってヒスタミンなどのかゆみの原因物質が分泌されてかゆみや炎症などの皮膚炎を引き起こします。

つまり多くの虫さされで見られる「かゆみ」は、虫の毒成分などに対するアレルギー反応の一つなのです。また、毒成分が注入されるとき物理的な刺激や、皮膚に注入された物質の化学的刺激によって、炎症が生じます。これが虫さされの「痛み」の原因です。

このような症状は年齢や刺された頻度、体質による個人差が大きいものですが、一般的にアレルギー体質の人は症状が強く出るといわれています。



虫さされになったらどうする？

虫に刺されたら、刺された部位をむやみに触らず流水で洗うなどして清潔にして、市販薬（OTC 医薬品）でかゆみや炎症を抑えましょう。特にお子様の場合、かゆくて患部をかきこわすことで、「とびひ」になる場合もあるのでご注意ください。

医療機関の受診をおすすめする場合

次のような場合には、すぐに医療機関を受診しましょう。

- 蜂、毒ガ（ケムシ）など毒性の強い虫に刺されたとき
- 刺されたあとにじんましんが出たり、気分が悪くなったりしたとき（ハチに刺されたときにはショック症状を起こすことも）
- 水ぶくれ（水疱）、腫れ、ほてり、痛みが強いとき
- かきこわし、ただれが強いとき
- 刺された人がアレルギー体質のとき
- 市販薬（OTC 医薬品）で 5～6 日セルフケアしてもよくなるらないとき

セルフケアのポイント

日常的な虫さされは、セルフケアで対処できます。かゆみ止めやステロイド成分などが配合された市販薬（OTC 医薬品）でケアしましょう。

セルフケアのコツ

患部を水で洗い清潔にしたあと、かゆみや腫れを抑える市販薬の塗り薬で治療しましょう。患部を冷やすとかゆみがある程度抑えられることもあります。

また、かきこわしによる二次感染や悪化を防ぐため、できるだけ搔かないように我慢しましょう。それでも子どもの場合はつつい搔いてしまいがちなので、爪を短く丸みがつくように切っておき、虫さされ用のパッチを貼るなどして防ぎましょう。

【セルフケアのコツ】

- 1 患部を清潔にする
- 2 患部を冷やす

傷口をよく洗い流し、清潔に。ハチにさされた場合に口で毒を吸ったら、すぐに吐き出しましょう。

作成
ケンユウ女池上山薬局